

6年制薬学教育の初級学年への問題基盤型学習（PBL）の導入－医療事例をシナリオにしたPBL－

○飯田 耕太郎¹, 亀井 浩行¹, 半谷 眞七子¹, 野田 幸裕¹, 森 健¹, 長谷川 洋一¹
(¹名城大薬)

【目的】名城大学薬学部では学習者が主体となり問題解決能力を醸成するために、入学早期から学習を開始することが重要と考え、1年生前期開講「薬学入門Ⅰ」で初年次教育の一環として、問題基盤型学習：Problem-Based Learning（PBL）を導入している。既にPBL教育では低学年での実践、高学年または大学院生を対象とし、実践的な臨床能力の習得を目指す導入が報告されている。PBLの内容は、学年や目的により様々であるが課題シナリオの多くが臨床症例や薬物治療を中心としたもので薬を取り巻く社会的な問題や医療に関わる諸問題をPBLの課題シナリオとして取り入れ評価した報告は見当たらない。

今回、医療の安全管理と薬剤師の役割をテーマとしたPBLを実施し、医療事故をシミュレーションしたシナリオを取り入れたことが薬学生に及ぼした影響について調べるためにアンケート調査を行い、あわせて学生の感想・コメントを集約した結果を報告する。

【方法】PBLのコアタイム（180分）は発表を含め4回で行った。1回目はシナリオを読みブレインストーミングとKJ法を活用して問題点を抽出した。2回目は問題点を解決するために学習すべきことを学習課題として決め必要な情報を収集した。3回目は収集した情報を整理・分析・処理し（情報リテラシー）、発表の準備をした。4回目は問題を解決するために理解したことを学習成果として発表した。

【結果・考察】アンケート評価結果および学生の感想・コメントから、医療事故をシミュレーションしたシナリオのPBLが医療安全管理の理解や薬剤師の役割の理解に役立ったことが明らかとなり、PBLの教育目標の達成に寄与したことが示された。